

下痢の原因、 調べてみませんか

こんにちは、新人の松下です。

最近朝晩はかなり冷え込むようになってきました…これからかよわい子牛たちにとっては
厳しい季節になり、肺炎や下痢など病気を患う子牛が増えてくると思います。

子牛の下痢の原因には様々なものがありますが、症状から原因を特定することは難しい
場合がほとんどです。

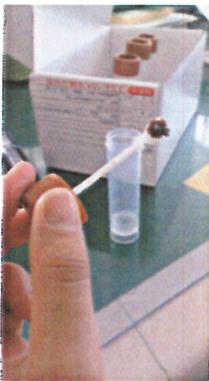
今回は、大腸菌、ロタウイルス、コロナウイルス、クリプトスポリジウムの4種類を同定できる
キット“バイオックス”をご紹介します。

		発症時期
細菌	大腸菌	2週齢以内(特に生後5日以内)
	サルモネラ菌	4週齢以内
ウイルス	ロタウイルス	4～14日齢
	コロナウイルス	1週齢程度
原虫	コクシジウム	2週齢～育成期
	クリプトスポリジウム	3日齢～4週齢

このキット、とても簡単です。

子牛の直腸内から下痢便を採取し、付属のスプーンですりきり1杯とって…

4種類の試験紙をつけて10分待つだけ！



線が1本なら陰性、2本なら陽性です。

簡易的なものではありませんが、誰でも簡単に、どこでも、検査できます。

興味のある方はご相談ください♪

とは言っても、本当は病気をしないのが一番です。そんな元気な子牛を育てるために…

先日、子牛のセミナーで勉強させて頂いた内容を少しご紹介します。

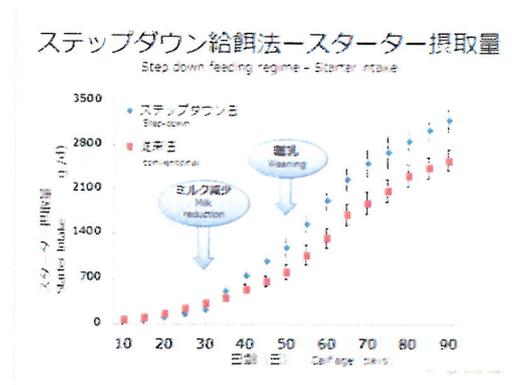
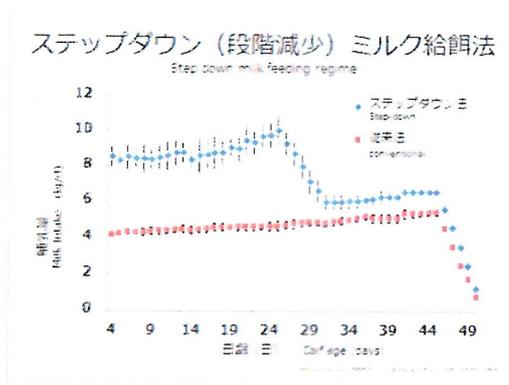


👉 やっぱり初乳が重要！

生まれたばかりの子牛は免疫機能が十分でなく、約2～3週齢まで初乳から得た移行抗体を感染防御に利用しています。子牛がこの移行抗体を吸収する能力はどんどん低下していきます。高品質な初乳をなるべく早く！遅くとも**6時間以内**に与えてください。目標は**3リットル以上**です。搾乳のタイミングによって6時間以内に初乳を搾ることができない場合などは、粉末初乳を給与するのも一つの手です。

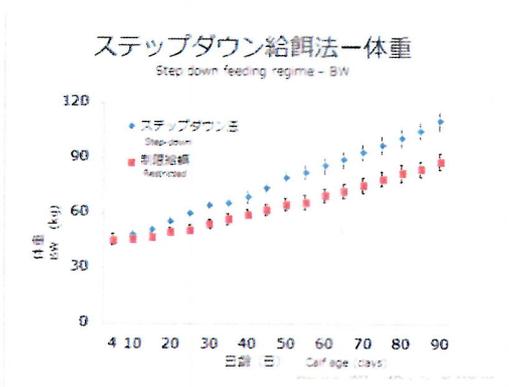
初乳の品質は、比重計や屈折計を用いて測定することができます。また、子牛がきちんと免疫を獲得できているかどうかは、生後1週間以内(できれば生後24～48時間以内)の血清総蛋白濃度から判断できます。初乳はしっかり与えているから大丈夫！と自信のある方も、ぜひ一度検査してみませんか？

👉 ミルクは体重の20%！



子牛には出生時体重の20%量のミルクを飲ませると、その後のスターター摂取量もあり、増体もよくなります。体重40キロの子牛なら、**1日8リットル**です！

その後25日齢から5日間かけて減らし、体重の10%のミルク量にするのが、この『ス



ップダウン給餌法』で、1日4リットルのミルクで育った子牛よりも、こんなに増体に差がつきます(←)。この際、哺乳瓶は細い口の新しいものを用い、時間をかけて苦勞して飲ませることが重要です。母牛と同居している子牛は1日に5～10回、5～10分かけて約10リットルのミルクを飲むと言われています。それが人の都合で、ほとんどの子牛たちは1日2回しかミルクを飲めないのです。毎日の作業で、哺乳に時

間がかかるのは大変かもしれませんが、哺乳瓶をハッチに固定できるように工夫するなどして、子牛にゆっくりミルクを飲ませてあげてください。

松下裕香

